

# ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2017年冬号(季刊)第142号

## 🌿 明けましておめでとうございます 🌿

1997年1月に当時の富士見市・上福岡市・大井町・三芳町の公民館や図書館に「一緒に地域国際交流センターを作りませんか」と書いたチラシを置かせてもらい、2市2町の公民館を順に貸していただきながら多言語で情報誌を発行したふじみの国際交流センターの活動が満20年に達しました。

1997年7月に古い民家を借りて本格的にふじみの国際交流センターの活動がスタートし、0号から始まった情報誌もすでに219号に達しています。

2000年にNPO法人になり、紆余曲折の末2007年に認定NPO法人になりました。

利用者・スタッフを合わせると毎年4~5000人の人がセンターに出入りしている訳ですから、この20年間では10万人弱の人との関わりがあったこととなります。うれしいですね。

こんな風に活動を続けることができるのは根気強く献身的なスタッフと、永く温かく支えてくださる理事と会員の皆様がいるお蔭です。本当にありがとうございます。いつも心から感謝しています。

日本への訪日客が2000万人を超え、政府はさらに3年後の訪日客は4000万人、13年後には6000万人という目標を掲げています。

また介護職員不足に備えて、今年から外国人技能実習制度の対象職種に「介護」が加えられました。物を扱う仕事を中心だった技能実習制度に、初めて対人サービス業が拡大されたわけです。

国内の外国人問題は難しくなり、比例してセンターの役割はますます重要になると考えられます。

幸先の良いことに1月に「朝日こどもの貧困助成金」を、2月に「かめのり賞」をいただけることになりました。皆様に力を貸していただきながら気を引き締めて、でも楽しく活動を続けていきたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

石井ナナエ



### 1. ヘイトスピーチと差別意識 山崎 友理

こんにちは、台湾出身の山崎です。先日、アメリカ大統領選挙でドナルド・トランプ氏が次期大統領に選ばれましたが、彼のこれまでの言動、例えばイスラム教の人を入国させないとか、メキシコとの国境に壁を作るなどの発言にはがっかりです。彼の反移民問題発言で、アジア系、アフリカ系、ラテン系、同性愛者などが街中や学校内で嫌がらせを受ける事が発生しました。これは人権侵害だと思います。

皆さんに聞きたいと思います。電車に乗って、全身を覆う黒い衣装“アバヤ”を身に着け、きれいな目だけ見えたイスラム系の方が嫌がらせを受けていたらどんな言葉をかけますか？ 日本の方はきっと何もせず他人の事のように無視するでしょうね！正直言うと私も怖くて声が出せないと思います。でもそれで良いのでしょうか？

You tubeを見ました。後ろの通りで日の丸を振り「暴れるな、朝鮮人！」「朝鮮人、殺せ！」などと書かれたプラカードを持つデモが通過している大阪市内で、女性がチマチョゴリを着て一人で立っていました。その足元には「私は韓国人です。隣の通りではヘイトスピー

チデモが行われています。私はあなたを信じます、一緒にハグしませんか？」というプラカードが置かれていたのです。

目隠しをして両手を広げていた彼女に通りすぎりの人たちはすぐには近寄らなかったのですが、次第に一人二人と抱き合う人が増え始めたのです。その動画に思わず涙が潤みました。

私自身も嫌がらせを受けた事がありました。日本人と同じ試験を受けてレジの仕事をしているのに、中高年の男性から「あんた外人？」と言われました。外人って、何でしょう？侮辱されて嫌な気持ちになって一日中落ち込んでいました。

日本は文明国、先進国のはずです。何でこのような発言が出たのでしょうか。日本に憧れて、いろんな困難を乗り越えて、やっと日本に来たのに、凄く失望しました。

物事を正しく見つめ、理解し合い一人一人が人間として尊重し尊重され、人として幸せに生きる権利を認め合う事が人権問題の解決に繋がっていくと思います。日本人は空気に左右されやすいと思いますが、これからは自分の毅然たる意識で差別を無くしましょう！

### 2. 差別とはなにか —差別をなくすための日本語— 安 銀柱

人間は誰でも差別を受ける事を嫌がる。そして、差別はいけない行為だと思っている。でも、自分を守るため、もしくは自分を目立たせたいがために差別したがる、そんな矛盾を併せ持つ存在でもあるのが人間である。社会的な強者になると、弱者と同じ待遇を拒む事もある。以前、世間を騒がせた韓国の「ピーナッツ姫」がよい例だ。「特別待遇」ともいう世間一般から「逆差別」をされたがるのを見ると、人間にとって「差別」という感情は、根強いものだとわかる。特権層への差別をなくす事も大切な事だが、社会的な弱者への差別は、彼らの生命、生計と直結しているので、社会的弱者に対する差別をなくす問題は、大きな課題だ。

では、社会的な強者は誰であり、社会的な弱者は誰だろう。「外国人の人権」という枠の中で考えると、日本の国籍を持っている日本人は、やはり強者で、韓国人である私は、もちろん社会的な弱者と言える。しかし、私も、自分の国に戻った瞬間、逆に強者になるし、日本人であるあなたは、よその国へ行った途端、社会的な弱者に入れ替わる。すなわち、外国人の差別問題は、他人の問題でもあるが、自分自身の問題でもある。したがって、外国人という社会的弱者に配慮する事は外国人のため

の配慮ではなく、外国人になる可能性のある皆さんのための努力だという事を忘れてはいけない。言葉の通じない外国で差別されず、適切な待遇を受けたのであれば、その国の社会的な強者に感謝しなければいけない。

「差別を無くそう」というと、難しく考えるあまり、それは国が何とかしてくれる事だと他人事に思う人が多い。しかし、誰でも出来る、とても簡単な方法がある。私自身、初めて日本に来る際に、大学の教授から次のようなアドバイスをもらった。それは、「外国で差別されないためには、その国の教養のある人が使う言葉を習いなさい」、というものだ。私が外国人であることが分かった途端、態度が変わってゾンザイ語で返してくる人に会うことがしばしばある。「差別」とは、言葉から始まる。相手への言葉使いはその人の気持ちを表す。日本には敬語という美しい言葉がある。外国人は、皆、すきこのんで片言の日本語をしゃべっているわけではない。ちゃんとした日本語を、差別されない教養のある日本語が習える場がもっとあれば、きっと美しい日本語を話そうとするだろう。それは、日本への敬意の表明であり、また自らの人間としての尊厳を守る行為でもある。

## ふじみの国際交流センターと私

上島 直美

私とFICECとの出会いは、かれこれ13年ほど前にさかのぼります。その時の私は、3歳の娘を育てながら仕事をしていました。他の子と同じように行動できない娘は、「保育が大変な子」としてダメ出しをされることも多く、私は頭の天辺からつま先まで全否定されているような気持ちで過ごしていました。「自己肯定感ゼロの毎日を変えたい。」とFICECを見つけ、すぐに電話でボランティアの希望を伝えました。それからの毎日は、仕事と育児に「ボランティア」が加わり、途中で息子の出産もあり、子ども2人を育てながらの怒涛の毎日でした。

最初のボランティアのイメージは「無償で社会に役に立つことをする。」しかし、私の場合、そのイメージはすぐに消えて無くなりました。「社会に役に立つことをするなんて、思いあがりもいいところだ。」生活相談を受けても十分に応えられません。日本語を教えることは「日本人だから出来る。」と思っていたら大間違い！学習者の方と一緒に頭を抱えてしまったこともありました。

そんな試行錯誤の毎日の中で自分なりに出した「ボランティアの意義」とは何か。活動の中で自分の足りないものに向き合い「自らを育てること。」自分を支えてくれた人たちに感謝しながら、成長の中で手に入れた様々なことを「周囲の社会や、必要な人のためにお返しすること。」もちろん、とても大変なことの連続ですが、だからこそ目に見えない幸せをたくさん感じる事が出来る。私にとってボランティア活動は、与えることより、むしろ頂くことのほうが多かったと感じています。

数年前に転職し、FICECの活動から離れている今だから見えることは、グローバル化が進み、日本で暮らす外国人も増えました。異文化での生活は困難を伴うと思いますが、相談すると「努力が足りない」「自己責任」などの言葉で返されてしまう事も少なくないはず。そんな困った時に真っ先に頭に浮かぶ相談先になって欲しいと思います。まずは、相談に来てくれたことを貴重な出会いと思い、一緒に考えながら、相談者が力を取り戻して「自分で」決めて行動できるように支えていく。FICECで

は解決できない問題は、解決につながるための「つなぎ」を成功させる。そのためには、生活相談に関わる人は、人との繋がりを広げ、知識も深める必要があります。FICEC内での勉強会に加え外部の研修へ行くと、自然とこの両方を手に入れることができます。また、外国人1人の問題だと思っていたことも、実は多くの人が悩んでいる問題かもしれません。同じような相談が増えることは、つまり、それは「社会問題」ということになります。生活相談から見える問題を外に発信して、社会の気付きへのきっかけを作りたい。気付きから行動に移す人がきっと生まれるでしょう。知名度の高いFICECからの発信は信用度も注目度も高いので「ハローフレンズ」や「インフォメーションふじみの」そして、経験豊富なスタッフが外に出て伝えてくることも大切だと思います。直接語りかける「言葉の力」は人を動かすきっかけとなるはずです。

以前インターンシップでFICECに関わった大学生は、現在青年海外協力隊の一員としてアフリカで子どもの支援をしています。私も会社を辞め、司法書士の補助者となり、主に精神上的の障害により判断能力が十分でない方が不利益を被らないように援助する仕事をしています。FICECの活動で人生が変わったのは外国人のみならず、多くの日本人も社会に対する姿勢が変わっているはず。人が変われば地域が変わり、地域が変われば社会が変わります。これからも温かい雰囲気はそのまま、更に充実した活動を終わることなく続けられるように願っています。





### スタッフ紹介

#### 「何気ない一言の声掛け」 樟山直美

ある日、家で草花に水遣りをしていたら、ご近所のおばさんに話しかけられました。

「あなた、先日はありがとうね。とても嬉しかったよ。」と云われるではないですか？ポカンとしていた私に、「この間、車ですれ違った時、声かけてくれたじゃない。駅までならどうぞって。その一言がとても善かったんだ。」

又、ある時にも同じような事がありました。今は、群馬県太田市に住んでいる、二十数年前の勤務先の友人が、久しぶりに会いたいです。とメールが来ました。

「何事かあったかな？」と思いながらの再会でした。彼女は、母親の介護のために仕事を辞めたようでした。そして、彼女が、「どうしても私に伝えたいことがあるんです。」と。

ある時、新しい職場に馴染めずに、今日辞めようか、明日辞めようか？悩んでいた時に、「あなたの出

来ることを、一生懸命にやれば大丈夫だから、無理せず頑張りなさいよ。」と。彼女は、その言葉が支えになり、十年間頑張りました、と。

ああ、そうなんだ。何気なく言った私ですが、この話を聞いたら、私も嬉しくなりました。

そして、またまたある時に。同じ運動をしていた方で、運動後に立ち話をするくらいの方ですが、ご主人を亡くされて、運動にもいらしてなかったので、スタッフにお願いして、手紙を渡してもらいました。

半年後、彼女から手紙をもらいました。その中に、「いつまでも、待っているからね。」この言葉に支えられました。と。

こんな事が、続いてあったので、今の私は、出来る限り、出来る範囲での、一言の声掛けをやっていこうと思っています。

ふじみの国際交流センターでも、同じような事があるとされます。外国の方達に一声掛けるだけで、救われる人がいるのでは。



#### 「愛する我が第二の故郷ブラジル」 木場 ひろみ



リオオリンピックは開催が懸念されていたにも関わらず無事開会・閉会され、ブラジルを訪れた人たちへの暖かい心使いも忘れられていないように思われる。

しかし、最近来日した人に聞いたところ、ブラジルの経済は随分行き詰まっているとのこと。どうすればこの大混乱から抜け出すことができるのでしょうか。愛するブラジルに気をもんでいる。

50年後半、私の家族は、親子6人サンパウロ市在住の母側の伯父を頼って移住。動機は、戦後の国の政策。終戦後、発令された農地解放では、耕作が出来ない田畑は国が没収することになっていた。先祖代々300年あまり受け継がれてきたものが失われる。そこで、農業経験のまったくない父は家を引き継ぎ、12年後、結婚した叔父に家を譲り、移住を決意した。当時、大宅壮一の“地球の裏街道を行く”シリーズが愛読されていて、中でも南米の貧しい家の前に立つ短パンの少年のスナップが今でも思い出される。数年後には東京でオリンピックが開催された。

私にとって第二の故郷になったブラジル・サンパ

ウロは暖かく迎えてくれた。当時はインフレーションもなく、緩やかに時が流れていた。穏やかで、市内には路面電車が走っていて、セ寺院前の広場に入ると、モカコーヒー店があり、美味しいコーヒーの香りが漂っていた。サンパウロのお茶の水橋、市立劇場、など。

私は、サンパウロがどんな町か、好奇心をもって来伯した。しかし、移り住んだ街は日本語が通じず、そこで生きていくにはポルトガル語の取得しかなかった。92年二人の子供同伴で来日。経済的な理由で。再会した日本は言葉が通じる外国。しかし、二人とも言語の困難を乗り越え中学・高校・大学で学び、育ち、巣立った。

では、大混乱に陥っているブラジルにはどんな対策を取ればいいのでしょうか。

ブラジルが辿る一つの道の選択として、世界の食物の倉庫を目指すプロジェクトを設置するのはどうでしょうか。巨大な国土、異なる気候、若年層の人口、条件は揃っている。しかし、このようなプロジェクトを実現するには、長い年月を通してのインフラ事業、特に、教育の徹底。まず、義務教育、教師の養成、設備。国民の考え方を変えていかなければならない。それには、忍耐と努力を要する。愛するブラジルが誰もがいつか一度は住んでみたいと思うような幸せに暮らせる国にしてもらいたいのが私の願いである。

ふじみの国際交流センターを応援しています

「いつも応援しています」 立麻肇子さん(国際ソロプチミスト埼玉)

さて？この大切な枠の中に何から書かせて頂ければ良いのでしょうか？

21歳の初々しい石井ナナエさんにご近所付き合いが始まって48年になります。

立派に成長された「FICEC」。『多文化が未来を拓く』ことを夢見てナナエさんが歩まれた長く一途な道のりを思う時、いつも無条件で応援させて頂きたいと願うのは、ナナエさんを知る多くの方々に“共通する思い”ではないのでしょうか？

ある時、入会を勧められ私が初めてその存在を知った「国際ソロプチミスト埼玉(SI埼玉)」に会員として在籍して24年が経過致しました。

1921年、アメリカ・カリフォルニア州・オークランドに於いて、当時の実業界で活躍する80名の女性により「樹齢2000年のメタセコイアを伐採から救うため」世界で最初のソロプチミストクラブが誕生しました。

現在では全世界132の国と地域に於いて、女性ならではの視点で『女性と女児の生活と権利の向上』のために、数多くのボランティア活動を展開しています。

SI埼玉では、歳入活動の一環として毎年11月8日に

川越市内の名刹・蓮馨寺の講堂をお借りして「チャリティ・バザー」を開催しています。

会員持ち寄りの品々を市価の半値以下で市民の皆様にご購入頂き、その収益金を会員在住の各地域に会員の推薦に基づいて「歳末助け合い」としてお届けして参りました。前号に掲載があります村山光代SI埼玉会員が貴センターを推薦されました。

2015年4月、SI埼玉認証40周年記念事業の一環として、奨学金制度を新設致しました。

親元を離れて生活してきた施設から、高校卒業と同時に自立して学業を続けようと努力する女子学生の厳しい経済状況支援を目的としています。

これまでの継続事業全般を見直し、女性と女児に焦点を当てたプログラムに活動を移しました。

これらの事情によりまして、貴センター「後援会の会員」としてのご支援に変わりましたが、これからも多方面で出来ることをさせて頂きたいと念願しております。

貴センターの益々のご発展と石井ナナエ様初めセンターでご活躍の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

見送りの3振より空振りの3振

パートⅡ

石井ナナエ

〇月〇日

69歳でスマホに挑戦している。挑戦しているのがなかなか使いこなせない。せっかく電話がかかってきても受信マークが見つからなくて電話が切れてしまったり、20字ほどのメールを打つのに四苦八苦している。昼間はセンターの仲間が教えてくれ、家に帰れば孫たちが額がこすれるほどに側に寄って、飽きずに何度でも教えてくれる。それでも間違える私に「ばあちゃん、慣れれば便利だからね」と励ましてくれる。優しい人たちに囲まれていることに感謝しながらも、機械オンチの自分に呆れている。

パソコンといいFacebookといいスマホといい、FICECの活動をしているからこそ必要に迫られて挑戦しているわけで、ただ家庭にいただけなら興味も持たなかったと思う。慣れればすぐに活用でき皆の仲間入りができ、楽しくてしかたない。

「大人の学びは楽しくなければいけない」と教えていただいたことがあるが、幾つになっても、新しいことに挑戦し、新しいことを覚えるのは楽しいことである。

〇月〇日

DV被害母子を保護し転宅するための支援を始め20年が過ぎ、保護した母子も55組138人になった。「ここに逃げてくるまで社会との接触を禁じられて

いたから、日本語が勉強できスタッフの皆さんと話ができる毎日がとても楽しい」と言ってくれる被害女性や、シェルター退去後、仕事を見つけて母子共に元気に生活している人や、世話になってとてもうれしかったとバザー用品を送ってくれる人を見ると、仮一時宿泊施設の必要性和活動の意義を実感する。しかし中にはDVもどきの母子や、明らかにDVではないと思える家庭もあった。

例えば父親の子どもに対する虐待がひどく逃げてきた母子や、夫婦げんかが激しくて何度も警察沙汰になっている母子の場合である。起業を目指す女性のキャリアアップのための助成制度はあるが、貧困家庭に対する生活一時支援資金や生活保護等、福祉制度の大半が世帯主対象で、離婚が成立する前の、父親から逃げたい母子や、離れて自立するための援助を受けたい母子が支援を受けるのが難しい。行き所のない彼らに対して警察や行政も、やむをえずDVということにして保護を委託してくるのだと思う。

長いことシェルター事業をしていると、やむごとなき事情がある人や離婚協議中の女性に「自立するための一時金」として「返済」を条件に、生活を立て直すための転宅費用等を貸し付ける制度ができたら良いと思うことが多い。

法人の寄付金特別損金算入

別表 14【二】  
寄付金の損金算入に関する明細書

ふじみの国際交流センターへの寄付は  
法人税が最大3割軽減されます

1

ふじみの国際交流センターに  
寄付しよう



寄付

領収書

ふじみの国際交流センター



2

この欄

別表 14【二】 寄付金の損金算入に関する明細書	
記号	名称
1	独立系非営利法人等
2	高層階級者への寄付金
3	文化・芸術・学術・スポーツ等
4	社会福祉等
5	国際交流
6	国際交流に供する事業
7	国際交流に供する事業
8	国際交流に供する事業
9	国際交流に供する事業
10	国際交流に供する事業
11	国際交流に供する事業
12	国際交流に供する事業
13	国際交流に供する事業
14	国際交流に供する事業
15	国際交流に供する事業
16	国際交流に供する事業
17	国際交流に供する事業
18	国際交流に供する事業
19	国際交流に供する事業
20	国際交流に供する事業
21	国際交流に供する事業
22	国際交流に供する事業
23	国際交流に供する事業
24	国際交流に供する事業
25	国際交流に供する事業
26	国際交流に供する事業
27	国際交流に供する事業
28	国際交流に供する事業
29	国際交流に供する事業
30	国際交流に供する事業
31	国際交流に供する事業
32	国際交流に供する事業
33	国際交流に供する事業
34	国際交流に供する事業
35	国際交流に供する事業
36	国際交流に供する事業
37	国際交流に供する事業
38	国際交流に供する事業
39	国際交流に供する事業
40	国際交流に供する事業
41	国際交流に供する事業
42	国際交流に供する事業
43	国際交流に供する事業
44	国際交流に供する事業
45	国際交流に供する事業
46	国際交流に供する事業
47	国際交流に供する事業
48	国際交流に供する事業
49	国際交流に供する事業
50	国際交流に供する事業
51	国際交流に供する事業
52	国際交流に供する事業
53	国際交流に供する事業
54	国際交流に供する事業
55	国際交流に供する事業
56	国際交流に供する事業
57	国際交流に供する事業
58	国際交流に供する事業
59	国際交流に供する事業
60	国際交流に供する事業
61	国際交流に供する事業
62	国際交流に供する事業
63	国際交流に供する事業
64	国際交流に供する事業
65	国際交流に供する事業
66	国際交流に供する事業
67	国際交流に供する事業
68	国際交流に供する事業
69	国際交流に供する事業
70	国際交流に供する事業
71	国際交流に供する事業
72	国際交流に供する事業
73	国際交流に供する事業
74	国際交流に供する事業
75	国際交流に供する事業
76	国際交流に供する事業
77	国際交流に供する事業
78	国際交流に供する事業
79	国際交流に供する事業
80	国際交流に供する事業
81	国際交流に供する事業
82	国際交流に供する事業
83	国際交流に供する事業
84	国際交流に供する事業
85	国際交流に供する事業
86	国際交流に供する事業
87	国際交流に供する事業
88	国際交流に供する事業
89	国際交流に供する事業
90	国際交流に供する事業
91	国際交流に供する事業
92	国際交流に供する事業
93	国際交流に供する事業
94	国際交流に供する事業
95	国際交流に供する事業
96	国際交流に供する事業
97	国際交流に供する事業
98	国際交流に供する事業
99	国際交流に供する事業
100	国際交流に供する事業

3

- A 法人税の確定申告で「別表 14【二】」に記載する
- B 別表の「適用額明細書」にも記載する



法人税が最大 3 割減税！

【損金算入限度額の計算式・試算例】 資本金 1000 万・所得金額 500 万の法人の場合

■ 一般枠  $\boxed{\text{資本金}} \times 0.25\% + \boxed{\text{所得金額}} \times 2.5\% \times \frac{1}{4}$   
 $(1000 \text{ 万} \times 0.25\% + 500 \text{ 万} \times 2.5\%) \times \frac{1}{4} = 3.75 \text{ 万円}$

■ 特別枠  $\boxed{\text{資本金}} \times 0.375\% + \boxed{\text{所得金額}} \times 6.25\% \times \frac{1}{2}$   
 $(1000 \text{ 万} \times 0.375\% + 500 \text{ 万} \times 6.25\%) \times \frac{1}{2} = 17.5 \text{ 万円}$

合計 21 万 2500 円まで損金になるので、この場合 21 万 2500 円寄付した分が納税したとみなされます。

## 市民活動交流会に参加

12月4日、ふじみ野市フクトピアにおいて、市民活動交流会が開催されました。この交流会はふじみ野市が毎年、市内の市民活動団体の活動を紹介し、市民や団体同士の交流を目的に開催しているもので、FICECは「ふじみ野市の外国事情」の展示で参加しました。「在留資格ってどんな種類があるの?」「ふじみ野市に暮らす外国人はどんな在留資格が多い?」「FICECが受けた外国人生活相談」などについて知ってもらう機会となりました。



## バザーを開催、収益は活動資金に

11月20日(日)に、FICECにおいてバザーを開催しました。大勢の方に来ていただき、売り上げは28,560円になりました。皆様のご協力を心から感謝しております。バザーの収益金は、FICECの活動資金として使わせていただきます。ありがとうございました。



## 朝日子どもの貧困助成金を授与

12月5日、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団より、朝日子どもの貧困助成助成金を頂きました。「外国人の貧困家庭の子どもや親に対する支援実例集の作成と養成講座の開催」を行います。ありがとうございました。



## 国際交流授業で子どもたちと交流

12月7日(水)に富士見市の小学校で、国際交流の授業をしました。「なかよくなりたいアジアの人」というテーマで、4年生の子供達と交流をしました。講師として、ベトナム、韓国、スリランカ、台湾、フィリピンのスタッフが行きました。写真は、授業が終わりホッとした顔でランチをしているところです。



## センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

### ●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

### ●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

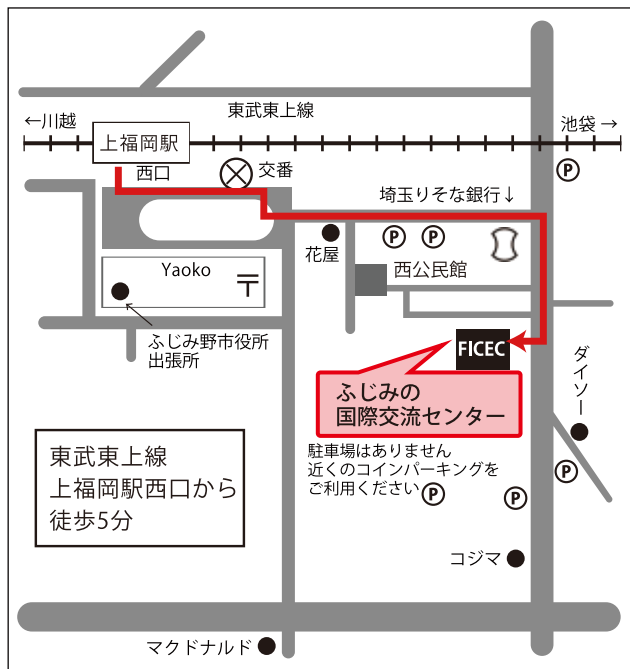
郵便振替口座：00110-0-369511  
口座名：ふじみの国際交流センター

## 外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
生活相談専用電話 049-269-6450

## ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2015年7月1日～2016年12月31日 (50音順・敬称略)  
秋本ノエミ、足立中3年D組、新井順子、新井節、新井洋子、新井良治、安部幸枝、安銀柱、石塚雄康、石山達也、イスマイロワマストラホン、伊藤真弓、板倉浩子、市川美緒、上原美樹、遠藤慧子、尾浦与子、大澤エミリー、大澤さよ、大室昭浩、小熊一雄、葛西敦子、粕谷光宏、加藤由里子、金沢国勝、金田康好、神田順子、木村不二雄、木場ひろみ、木村澄江、久野弓枝、樟山直美、熊谷洋興、栗嶋三千代、小林暁美、駒形一夫、近藤知代、酒井有香、佐竹裕子、佐藤弘康、佐藤義治、佐藤光江、塩野輝之、芝山喜己子、島田道子、島田敏郎、ジェニファーラグリーン、ジョージチャ、江科、鈴木讓二、関ニーランテイ、高橋郁子、滝澤淳子、竹内直江、武田和子、武田早希、立麻肇子、田中つや子、チャミラー、チャミンダ、鄭玄淑、坪田幹男、出口優子、寺村壁如、戸塚成子、中島恵津子、中村禎作、萩原千代子、早瀬佐恵子、彦由章、平野美千子、藤島伸子、星野秋梅、本多香、松本佑子、向吉孝子、村山光代、茂木久美子、森田信子、八木一之、矢澤美紀、山内典子、山口勇、吉井ジュリエッタ、(株)吉岡、吉永義仁、邱皇親、邱亜蘭、劉圭霖、集英社、東入間地区遊技業防犯協力会、立麻医院、イオン(株)大井店、富士見市国際交流協会

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

### ふじみの国際交流センター

#### サービス案内

外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費	
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)	
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費	
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等		内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作		
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ	
	その他文書	A4 3,000円/ページ	
通訳	半日5,000円+交通費		
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日	
○印刷機、コピー機が使えます			

## ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。